



すすめるけん

県がすすめている取り組みを紹介します！

「食品ロス」の削減に向けて ～10月は「食品ロス削減月間」です～

食品ロスとは、食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、国内で年間600万トン以上発生しています。このうち事業系と家庭系のものがそれぞれ半数程度となっており、食品ロスの削減には事業者と家庭の両方の取り組みが必要です。

県では、今年度中に「長崎県食品ロス削減推進計画」を策定し、県民運動として食品ロスの削減を推進していきます。

家庭での食品ロスを減らすポイント

● 買い物時

- ① 買い物前に食材をチェックする
 - ➔ 冷蔵庫や食品庫の食材をメモ書きやスマホ撮影し、買い物時の参考に
- ② 使う分、食べられる量だけ買う
 - ➔ まとめ買いをせず、必要な分だけ買って食べきる
- ③ 期限表示を知って、賢く買う
 - ➔ すぐ使う食材は、店の棚の手前からとる

● 調理・保存時

- ① 食材を適切に保存する
 - ➔ 食品に記載された方法に従って保存。野菜は冷凍やゆでるなどの下処理をして保存する
- ② 食材を上手に使いきる
 - ➔ 残っている食材から使う。作り過ぎた料理は、リメイクなどの工夫をする
- ③ 食べきれぬ量を作る
 - ➔ 体調や健康、家族の予定も配慮して作る

一人一人が「もったいない」を意識して行動しましょう！



「九州食べきり協力店」

小盛りメニューの導入や食べ残り削減に向けた啓発活動など、食品ロス削減につながる取り組みを行う事業者・店舗を「九州食べきり協力店」として登録しており、九州各県で統一して取り組んでいます。



フードバンク活動の支援

フードバンク活動とは、食品関連事業者で発生する規格外品や売れ残り品といった未利用食品を、こども食堂などの福祉施設などに無償で提供する活動です。県では、フードバンク活動を行う団体と、食品提供者、食品受取者をつなげるマッチング事業を行っています。



夢をかたちに!

長崎県知事
中村法道

「食品ロス」は、国際社会の共通目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の一つに掲げられるなど国際的な課題にもなっており、これを削減することは、大切な資源の有効活用や環境負荷の低減にもつながります。県民の皆さんも、日常生活の中でできることから実践していただき、食品ロスの削減に協力をお願いします。



社会福祉法人 ながよ光彩会

(長与町)

お話を伺ったのは
業務執行理事/統括施設長
さだまつ とおる
貞松 徹さん

人と地域、社会のために 多様な福祉事業を提供

ながよ光彩会という名前には、光り輝く多様な福祉を提供したいという思いが込められています。「人のためにできること、地域のためにできること、社会のためにできること」を理念に掲げ、グループホームや特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護などの事業を2014年から行っています。今年7月には、公益事業の一環として「みんなのまなびば み館」をグループホームの1階に開設しました。



新規事業として、高齢者にも安全に食べられる餅を飲食店と共同で開発中



長与町役場近くにある「みんなのまなびばみ館」

地域公益事業として開設 「みんなのまなびば み館」

以前から私たちは、介護福祉士を目指す外国人や特別支援学校の卒業生を対象にした講座の開催や実務研修など、社会福祉法人だからこそできる地域公益事業に力を入れてきました。コミュニティスペースである「み館」では、グループホームの入居者や職員、そして地域の皆さんに、自分の好きなことや得意なことをやる場所として活用していただけたら嬉しいです。施設や道具のレンタルも行っています。



県内で頑張っている企業や人に
エール(応援)を送ります!

「み館」に集まった課題を 今後の事業に生かしていく

み館では、誰もが“せんせい”にも生徒にもなれるワークショップを定期的で開催しています。ペーパーマッサージや魚のさばき方、押し花にタイカレーづくりなど内容は多彩で、世代や国籍を問わず、人と人をつなぐ場にもなっています。利用者の皆さんと話していると、子どもや障害のある方への支援など、地域に課題やニーズがあることも分かってきました。今後それらの課題にも取り組み、地域へ還元していきたいと考えています。



グループホームの入居者も特技を生かして“せんせい”になり、自分らしさを取り戻す場になっている

「み館」は、新しいつながりを育む、
まちのリビング
みんなが輝けるための場所をつくりま

